

# 神戸市立博物館開館40周年記念特別展 よみがえる川崎美術館—川崎正蔵が守り伝えた美への招待— 2022年10月15日(土)～12月4日(日)

## 100年ぶりによみがえる、日本初の私立美術館

明治23（1890）年9月6日、神戸市布引の川崎邸（現在のJR新神戸駅周辺）に日本初の私立美術館「川崎美術館」が開館した。創設者は川崎正蔵（1837～1912）。川崎造船所（現川崎重工業株式会社）や神戸新聞社などを創業した、近代日本を代表する実業家である。

明治時代、急速に西洋文化の流入と廃仏棄釈が進むなか、古美術品の海外流出を憂慮した川崎正蔵は、日本・東洋美術を彩る優品を幅広く収集し、一大コレクションを形成した。川崎美術館は、それらのコレクションを秘蔵することなく、公開することを目的として誕生した。活動は大正13（1924）年まで続いたが、昭和2（1927）年の金融恐慌をきっかけにコレクションは散逸。川崎美術館も水害や戦災によって失われてしまったが、彼が愛した作品は、今なお国内外で大切に守り伝えられている。

本展では、川崎正蔵が所蔵した作品のなかから、国宝2件、重要文化財5件、重要美術品4件を含む、絵画、仏像、工芸品約80件と、貴重な資料を合わせた約110件を展示する。

また、川崎美術館では、南禅寺の塔頭・帰雲院に伝来した円山応挙の襖絵が空間を彩っていた。本展ではこのうち美術館1階の、上之間・広間・三之間の3室の襖が再現展示され、往時の美術館の空間を追体験することができる。

さらに、明治35年、明治天皇の神戸行幸に際して、川崎正蔵が用意した屏風5双は、叡覧の栄に浴したことから「名譽の屏風」と称された。本展では、このうち海外から初の里帰りとなる狩野孝信筆「牧馬図屏風」など3双を展示する。

正蔵が愛した珠玉の作品が再び神戸に集い、川崎美術館が約100年ぶりによみがえる。このまたとない機会にぜひ会場に足をお運びいただきたい。



神戸市立博物館  
学芸員 川野 憲一

右  
隻



左  
隻



狩野孝信「牧馬図屏風」 桃山時代～江戸時代・16世紀後期～17世紀初期 個人蔵

※展覧会の詳細は神戸市立博物館のHP (<https://www.kobecitymuseum.jp/>) をご覧ください。ご来館の際は、新型コロナウイルスの感染対策に引き続きご協力をお願いします。当館HPなどで最新情報をご確認ください。